東西南北 記者の目

キャンプ場等活用へ
猪之頭公園に明るい展望

富士宮市がまとめた観光客入り込み状況によると、2018年度は641万8654人が訪れており、前年度対比5・39%の伸びを見せた。そんな中、田貫湖周辺（5施設）は30万2597人で同7・18%減少している。キャンプ場人気に陰りが見え始めたのかと驚いたのだが、実は田貫湖キャンプ場で一日の人数制限を行ったことが主な要因。前年、夏場の混雑が著しく、道路が渋滞したことなどから制限をかけた。まだまだキャンプ場人気は続いている。

静岡県有の猪之頭公園（富士宮市猪之頭）を、キャンプ・バーベキュー場として活用する検討が始まった。県および市、猪之頭区などで組織する同公園運営協議会が、「鱒の家」を含む同公園の今後について初めて、キャンプ、バーベキュー場としての方向性を打ち出したのだ。委員である県担当者も、キャンプ場などで活用できるよう自然公園法に定める園地計画の見直しを前向きに発言しており、明るい展望が見えてきた。

「鱒の家」のネックとなったのは冬場の営業というが、いまやキャンプは夏だけのものではない。虫はおらず、澄んだ星空を眺める冬のキャンプも人気を集めている。

現有施設への民間誘致を続けても結果は見えており、トイレの維持管理にも費用がかかる。県担当者も「利活用は進んでおらず、サービスは生まれていない」と指摘する。園地計画の見直しで、必要に応じた便益施設などの整備が盛り込まれるというが、この時機を逸しないためにも県には早めの計画策定を望みたい。

（上地常視）

勉強以外の学び
語学より必要なもの

富士宮市では英語教育が進む中、小・中学生の英語力向上のために教諭や中学生の海外派遣に取り組んでいる。

海外派遣を体験した教諭と話をしたところ、「すごく勉強になった。日本と教育へのアプローチが違う」と話し、今後の授業にどう活かすかを考えていた。海外を訪れた中学生たちは「自分の国の外に出れば、いろいろなことが違う」ということを存分に体感してきたようだった。また、個人や各種団体の支援で短期留学をした人に聞くと、「日本で学んでいたつもりの英語は全然通じない。ただ勉強するだけではだめだね」と笑っていた。

語学を学ぶためには、その国に行って生活するのが一番だ。何しろそこでは自分が外国人だ。郷に入っては郷に従えの精神であれば言葉を話せるようになるのは誰でも分かり切っていることだ。

しかし、学ぶためには積極的に会話をするコミュニケーションスキルも必要で、海外の語学学校に行ったのに同じ学校の日本人とだけ話して帰ってきた人は、学んだはずの言葉を話せないという残念な結果も聞く。それを考えると、外国語を学ぶ前に必要なものが見えてこないだろうか。

社会に出て、コミュニケーションが苦手な人ほど困難な人生を歩む気がする。生きている限り、24時間365日、誰とも接しないでいることはできないのだから。英語の前に日本語、そしてコミュニケーションスキルを身に付けるのは、学校と家庭、それぞれでできるはず。子供たちのためを思うなら、勉強以外の学びを大切にしてほしいと思うが。

（千頭和真理）

食の安全対策充実へ
8月は「食品衛生月間」

富士宮食品衛生協会食中毒防止講習会が富士宮市内で開かれ、県富士保健所職員がHACCP（ハサップ）などについて解説。HACCPは「原料の受け入れから製造、製品の出荷まで一連の工程において、食中毒などの健康被害を引き起こす可能性のある危害要因を科学的根拠に基づき管理する方法」で、原則すべての事業者を対象としてHACCPに沿った衛生管理が制度化され、2021年に完全施行となるという。会場では食品を扱う事業者約350人が熱心に耳を傾けた。

2日後には、同保健所による富士山富士宮口山室一斉監視指導の取材で富士宮口5合目へ。翌日まで2日間を通じて山頂までの9施設を巡回する指導で、多くの登山客でにぎわう5合目レストハウスでも、職員が調理場における食品の保存・管理や水の消毒状況、宿泊寝具の衛生管理状況などを入念に確認した。

同保健所によると、昨年に県内で発生した食中毒は25件、患者数は706人で、前年比で6件、206人の増加。病因物質ではノロウイルスが10件、437人で最も多かったという。同保健所管内で昨年に発生した食中毒は2件、患者数46人で、ノロウイルスによる患者数が42人を数える。

もちろん、世界遺産・富士山と食の街を支える事業者には適正かつ十分な食品衛生管理を期待するが、食中毒の危険は飲食店や施設ばかりでなく、各家庭にもある。8月は「食品衛生月間」。事業所や家庭などさまざまな場面で食の安全・安心をあらためて見つめ直す機会にしたい。

（安江桂介）

「SDGs」とは
持続可能な世界実現に向け

最近「SDGs（エスディー・ジーズ）」という言葉を耳にする機会が増えた。SDGsは持続可能な開発目標を示す言葉で、2015年の国連サミットで採択された国際目標だ。貧困や不平等、福祉の推進、気象変動への対応など30（令和12）年までに〝持続可能な世界〟を実現するための17の目標（ゴール）と、それを達成するための具体的な169のターゲットで構成されている。

現在、国や自治体、各種機関・団体等がそれぞれの取り組みにSDGsの考えを取り入れ、さまざまな取り組みを進めており、富士宮市でも、持続可能なまちづくりや地域の活性化を実現するため、本年度を〝SDGs元年〟と位置付けて、「富士山SDGs」の名称で市民への普及啓発や市の課題解決に向けた具体的な取り組みを始めている。

また、富士宮市内の高校生が連携して、高校生視点で地域振興や地方創生、地域ビジネスの手法について学ぶ富士宮高校会議所にもSDGsは波及し、本来廃棄されるニジマスの残渣（ざんさ）と朝霧牛のふん尿を熟成発酵したリサイクルたい肥「マスマス元肥（げんぴ）」を発案・開発。「これまでニジマスの残渣は1カ月に約20トン出ており、これを活用できれば資源的にも経済的にも持続可能な地域社会の形成に役立つのでは」と考え実践に移したそうだ。

SDGsの目標を達成するための取り組みは、大きなものから個々にできる小さなものまでさまざま。一つ一つの小さな積み重ねが、持続可能な世界の実現につながっていくはずだ。

（菅谷拓郎）

肉のむらまつ
(火水)コロッケ48円(木)メンチ・唐揚げ・豚ごま
(金)とんかつ(土日)焼豚特売日!!
自家製国産ローストビーフ698円(土曜日税込598円)!!
国産馬刺し(生)ホルモン各種大人気です!!!!
大中里784-12
☎(0544)27-5217

人材派遣・職業紹介・業務請負
高齢者歓迎・外国人エンジニア・留学生紹介
株式会社 フルサポート
☎0544-24-8891
富士宮市大宮町12-10

スタッフ募集
①看護職員（日勤・常勤）
②看護職員（夜勤あり）
③看護職員（パート）
※③については就業時間、休日の相談可能です。
ブランクのある方も歓迎。
詳細はお問い合わせください。
（施設見学可）
☎(0544)54-1800（担当/加藤）
富士宮市原（白糸滝上）
介護老人保健施設 リバブルケア

法事は天道で
☎(0544)58-3813

生鮮の穴場！
毎週火・水曜は投げ売りの2日市！
野中のフレッシュモロホシ
☎(0544)26-2596

シャドーアート
A.Bキューブ WEST
飯塚清乃 第2回作品展
日時 8月6日(火)～12日(月)
10:00～17:00
初日は12:00～、最終日は14:00まで
※8月7日(水)は定休日
場所 江戸屋本店
（富士宮市宮町3-2 TEL0544-27-2003）

着物や帯をバッグにリメイク
日時/第1・3土曜日 10:00～12:00
講師/鈴木 信子
会場/岳南朝日新聞社
受講料/3,000円（材料費別）
入会金/3,000円
年会費/2,000円（基本）
持ち物 裁縫道具、ミシン（なくても可）
岳南朝日カルチャーセンター
お問い合わせ・お申し込みは TEL(0544)28-0202 まで

多肉植物寄せ植え講座 1日講座
ティーポットに寄せ植えします。
日時 8月28日(水) 13:30～
講師 清 朋枝（押し花インストラクター）
場所 岳南朝日新聞社
受講料 1,000円＋材料費1,300円

岳南朝日カルチャーセンター
お問い合わせ・お申し込みは TEL(0544)28-0202 まで